

次の文章を読み、設問に答えなさい。

就職が決まらない鵜川潤平は、アパートのとなりの部屋に住む小学生の勝野勇大と、ライギョつりを教えることを通じて親しくなり、料理なども教える関係になっていきます。

日曜日の午前中も、二人でライギョつりをした。前回よりも長い時間、勇大にロッド^{※①}を持たせてやったところ、やや小ぶりの二匹をつりあげた。特に二匹目の五十センチ台の方は、潤平はほとんど指示を出さずに「あそこにいるみたいだぞ」と教えてやっただけだったので、勇大が一人でつったものといえた。

その週の水曜日にもいっしょに夕食を食べた。このとき、潤平は見守るだけで、ほとんどを勇大にやらせた。みそしるに入っている豆腐^{とうふ}の形がばらばらで、フライパンで焼いたソーセージは少しこげ過ぎてしまったが、ご飯はちゃんとたけており、みそしるの味もまあまあの出来だった。勇大は食べながら何度も「おいしい」と喜んでしたが、多分それはaジガジサンではないのだろう。きつと、自分で作ったということや、だれかといっしょにそれを食べるということが、味を格別なものにしているのだ。

次の日曜日は残念ながら雨が降っていた。潤平がもしやと思つてドアを開けると、①勇大がアパートの鉄階段のところ座つて、空を見上げていた。「今日はだめだな。また今度な」と潤平が声をかけると、勇大は少しがっかりしたように「うん」とうなずいて、自宅にもどった。

午後、買い物に出かける前に、携帯電話が鳴った。画面を見ると黒谷^{くろたに}からだった。

「鵜川、おれ、おれ。今ちよつといいか」

「ああ、いいよ」

15 「実は、うちの部長がお前に会つてみたいと言つてるんだ」

「……ほんとか」

「本当に決まつてるだろう。決まれば即採用だから、就職浪人^{※②}とおさらばできるぞ」

もしかすると黒谷は、「鵜川つてやつがいるんですけど……」などと、売りこんでくれたのかもしれない。いや、きつとそうだ。潤平は電話を切った後も「すまん、ありがとう」と頭を下げた。

20 そのとき、「奇跡^{きせき}を信じたければ、つりをするがいい」という言い伝えに、だったら就職させると、心の中でぼやいたことを思い出した。

「つりの神様、あなたをなめてました。おそれ入りました」潤平は両手を合わせてbオガんだ。

土曜日は曇り空で、少し暑さを感じる気温になった。潤平はスーツを着こみ、午後一時にアパートを出た。会社に行くには列車と徒歩で四十分近くかかる。

25 駅に向かつて、勇大とライギョをつつている水路沿いを歩いた。何となくのぞきこむと、おとといから昨日の朝にかけて降った雨に合わせて排水門^{はいすいもん}を開いたらしく、水位がかなり減っていた。視界に人が入ったので目をやると、五十メートルほど前方の水ぎわに男の子が立っていた。すぐにそれが勇大だとわかった。手にはロッドを持っており、腰^{こし}のところにウエストバッグらしきものをつけている。

30 何か変だなと思った。近づいてゆくうちに、何が変なのかがわかった。勇大はコンクリート護岸^{※③}ではなく、それより二メートルほど入りこんだ土の上に立っていた。しかも、勇大のひざ上までが、土の中にめりこんでいる。よく見ると、それは土ではなかった。表面がかわいているせいで土のように見えるが、水分をたつぷりとふくんでいる泥^{どろ}らしかった。だから、ひざ上までめりこんでいる。

35 ガードレールをまたぎながら「勇大」と声をかけると、勇大が、はつという感じの表情を向けた。その顔がたちまちすがりつくような、泣き出しそうなものになった。

「出られなくなったのか？」

勇大がくちびるをかみしめてうなずく。ひざまで泥にうまると、確かに動くことは難しいだろう。無理をすればそのままたおれてしまい、起き上がれなくなるかもしれない。

40 自分のせいだと潤平は思った。減水したときは、ぬかるみが地面のように見えることがあるから注意しなければならぬ、そういうことまで教えておくべきだったのだ。

潤平はコンクリート護岸のふちに立ち、そつと、体重をかけないようにして、ぬかるみ部分をふんでみた。一瞬間^{いっしゆん}だけ、ふつうの土のように感じられるが、ゆつくりとしずみ始める。あわてて足を引っこめた。こんなところに入りこんでしまったら、子供一人の力では脱出^{だつしゅつ}できないだろう。

「棒か何かを取ってくる。もうちよつとそこがまんできるか」

45 勇大は泣き出したいのを必死でこらえている感じでうなずいた。

「すぐに助けてやるから、二三分待つて」そう言い残して、コンクリート護岸をかけ上った。

車の解体工場にかけこんだが、人かげがない。今日は土曜日だからなのか。

使えそうなものが見あたらず、焦り始めたときに、軽トラックが入ってきて、グレーのつなぎ服を着た、四十代半ばぐらいの男性が降りてきた。

50 「何？」と男性が言った。

「その水路のぬかるみに、男の子が入って、出られなくなってるんです」

「えっ、ほんとか」男性は水路の方を見回すが、ここからは視界に入らない。潤平は「少し先です」と説明した。「よし、じゃあ、あれを使おう。何個か持って行こう」男性は、敷地のすみに積まれてある古タイヤをあごでしやくった。

55 一人二つずつ、大きめのタイヤをかかえて歩いた。使い方は聞かなくてもわかる。

男性が勇大を認めて「すぐに助けてやるからな」と声をかけ、コンクリート護岸を下りる。潤平も後に続いた。まず男性が、ぬかるみの中にタイヤを一個置き、その上にもう一個を重ねた。男性がその上に乗り移る。タイヤは男性の重みでゆっくりとしずんだが、全部がしずむことはなく、かろうじて上の部分は残った。

60 男性が「よし、まずはそれ、さおをよこして」と手を差し出し、勇大からロッドを受け取って潤平にリレーした。続いて男性は勇大の手をつかんでひっぱり上げた。勇大はぬかるみから足がぬけて、タイヤの上に乗った。潤平がロッドを近くに置いて、手を差しのべると、勇大がしっかりとつかんできた。そのままコンクリート護岸に渡らせる。勇大の顔は青ざめて、くちびるがふるえていた。

「ぼく、氣いつけるよ。一人で土手を下りたら危ないぞ」男性はそう言って笑いかけ、潤平には「タイヤは後で、引っかけるものを使っておれが回収するから」と言い残して行った。潤平がその後ろ姿に向かって「ありがとうございました」と頭を下げると、勇大もそれにならって頭を下げた。

65 「やれやれだったな」言いながら勇大の背中をなでてから、我に返って、腕時計を見た。

潤平は「ああ」とうめいた。面接の時間にとっても間に合いそうもなかった。携帯電話を取り出し、部長に連絡を入れた。

70 アクシデントがあつて面接におくれそうなので、申し訳ありませんが少し待ってもらえませんか——おずおずとたのんだ。列車事故にでもあつたのかと聞かれ、そうではなくて、列車に乗る前にちよつと②手間取る出来事に遭遇してしまった、と正直に答えた。

部長の口調が急に冷たいものになった。

「あなたもビジネスの世界で生きていこうとしているのなら、約束の時間を守れないということがどういことか、わかるはずです。何があつたのか、くわしいことは知りません。そんなことは関係ないんです。とにかくあなたは約束を守れないと言っている。ならば面接はできません」

75 切れた携帯電話を見つめながら潤平は「あーあ」と、やけくそ気味につぶやいていた。

アパートまでタクシーで帰るつもりだったが、氣が変わって排水門の手前で降りた。減水した水路の水面が、風でさざ波を立てている。

80 「何でだよー、Aつりが奇跡を起こすんじゃないのかよー」

声を出して、足もとの小石を拾い、投げた。間のぬけた音がして、波紋が広がった。

ばかなことをしてしまった。別に自分が助けなくてもよかったのだ。勇大は単に、ぬかるみから出られなかったというだけのことだ。今にもおぼれそうだったとか、流されそうだったというわけじゃなかった。その氣になれば自力でも脱出できたのではないか。

85 知らん顔で通り過ぎればよかったというのではない。あの自動車解体工場の男性に後をたのめば、それでよかったのだ。急用があるからと断って、後で礼を言えば。あの男性からは、無責任なやつだと思われるかもしれないが、勇大は結局は無事救出され、自分は面接に間に合っていたし、就職できた。

③ うーむ。潤平は頭をかいいた。

90 本場にそうすべきだったのか。無事に会社に入り、バリバリ働くようになる。勇大だって、別にうらみはしないはずだ。そうかもしれない。でも、もやもやした後ろめたさが残るということはないか。自分だけ、用があるからとその場からいなくなったりしていいのか。

視界に人かげが入ったので目をやると、五十メートルほど前方の水ぎわに男の子が立っていた。すぐにそれが勇大だとわかった。手にはロッドを持っており、腰のところにウエストバッグらしきものをつけている。何で？ 潤平は目をこすった。確かに勇大だ。

95 近づいて、「あつ」ともらした。

勇大はコンクリート護岸ではなく、それよりも二メートルほど入りこんだぬかるみに立っていた。ひざの上

までが、めりこんでいる。

④潤平は腕時計を見て、「うそお」とうめいた。あのときにもどっている。

これが奇跡というやつなのか。

頭が混乱した。今のこの状況^{じょうきやう}をどう解釈^{かいしやく}すればいいかということもだが、自分は今から何をするべきなのかもよくわからない……。

潤平はとりあえず走って近づき、ガードレールをまたぎながら「勇大」と声をかけた。勇大が、はっという感じの表情を向ける。その顔がたちまちすがりつくような、そして泣き出しそうなものになった。

「出られなくなったのか？」

105 勇大がくちびるをかみしめてうなずく。

「ということは、つなぎ服のあの男性にたのめば何とかなる。勇大と再び目が合った。いや、だめだ。立ち去^{たちさ}つてはいけない。そばにいてやらなければ。」

110 その後は同じだった。潤平は、自動車解体工場の男性といっしょに勇大を助け出した。その間に面接時間のことをまたもや忘れてしまい、携帯電話から部長に連絡を入れたものの、ノーの宣告を受けた。

そしてさきほどタクシーを降りて、今は排水門の近くに立っている。

もしやと思つて目をこらしたが、勇大の姿はなかった。その場所にあったのは、いくつかの足跡^{あしあと}と、タイヤ跡だけだった。腕時計を見たが、時間はもどっていない。奇跡は一度きり、ということか。

115 潤平は「ばーか」とつぶやいた。「せつかくB奇跡^{きせき}が起きたというのに、むだにしやがって」一人で大きく背のびをし、それからげんこつで頭をたたいた。

帰宅してスーツをしまいこみ、部屋の掃除^{そうじ}をしているときに、ドアチャイムが鳴った。

120 出てみると、見覚えのない男性が「あ、急におうかがいしてすみませんが」と小声で言った。「あの、鶴川さん、ですよね？」

「はい」

「勝野君とライギョつりをされる方」

「はあ……」少し身構えながらうなずくと、男性は横山と名乗り、勝野勇大の担任をしていると自己紹介^{じこしょうかい}した上で、「ちよつとだけ、お話をさせていたただきたいんですがね、いいでしょうか」と言った。どうやら内緒^{ないしょ}の話をしたいらしいと察し、潤平は招き入れた。

125 横山先生は「勝野君、最近になって急に元氣が出てきたというか、目のかがやきがちがつてきましたね」と切り出した。「それまではおとなしいというか、おどおどしているというか、自信のなさそうなところがあって、クラスメートからも軽く見られて、ばかにされているような感じだったんですよ。だから心配していたんですが」横山先生は相変わらず小声だった。「⑤本人に事情を聞くタイミングをはかってたところだったんですが、かれ

が書いた作文でわかりました」

130 横山先生はそう言つて、原稿用紙を出してよこした。「かれは作文を書かせても、一枚分でもなかなか書けない子だったんです。そのかれが、ものすごい勢いで一気に三枚も書いたんですよ」

「ライギョつり」という題名^{＊⑥}の作文だった。となりに住んでいるお兄ちゃんにライギョつりを教わったことが書かれてあった。文章はつたないが、勇大がライギョつりに夢中であることや、初めてつり上げたときの興奮などが伝わってくる内容だった。さらには、ライギョの生態やルアーフィッシングの方法とマナー、できるだけライギョにダメージを与えないようにすることが大切だといったことも書かれてあった。

135 読み終わったのを確認^{かくにん}して横山先生が「いい作文だと思ったので、授業で本人に朗読させたんですよ」と続けた。「それ以来、他の男子児童たちの勝野君に対する態度も変わったような気がします」

へえ、そうだったのか。⑥潤平は心の中で、もしかしておれのおかげ？ と少々鼻を高くした。

140 「ところで」と横山先生がせきばらいをした。「おとなりに住んでおられてお気づきの範囲^{はんい}でけつこうなんで、勝野君が、家ではどういう生活をしているのかを、お聞かせいただければありがたいのですが」

担任の教師であれば知っておきたいことだろうし、見たところ、横山先生は勇大の味方をしてくれそうな気がしたので、潤平は、母親が夜に仕事に出ていることや、以前はインスタント食品ばかり食べていたようだが、料理の作り方を最近教えたこと、勇大と親しくなったのはごく最近であること、などを話した。

145 話のついだと思ひ、潤平は勇大の父親のことをたずねてみた。横山先生は個人情報だから口外しないでほしいと念おしした上で、勇大の両親は二年前に離婚^{りこん}しており、父親については全くといっていいほどわからないと教えてくれた。

「ときどき会ったりはしてないんでしょかね、勇大は、お父さんに」
「会ってないと思いますよ」横山先生は、ケワしい顔で頭をふった。「最大の離婚原因が、奥さんへの暴力だったと聞いてますし」

150 勇大が最近まで、どこかおどおどした態度だったことを思い出した。

しばらくの間ができ、横山先生はもう一度せきばらいをした。

「まあ、鵜川さんになら、お話ししていいと思いますのでお教えしますが……先ごろ、母親の方の姉夫妻が、勝野君を引き取りたいと言ひ出しましてね」

「えっ、本当ですか」

155 「ええ。そのご夫妻には子供さんが三人いるのですが、⑦勝野君の生活環境を心配しておられるようで、日常生活のめんどろを見たい、と言っておられるんです」

「そうですか……そんなことが」

「でも、勝野君の母親が断ったそうです。もともとあまり姉妹の仲がよくなかったという事情もあるようですが、母親としての意地、ということなんでしょうか。あ、それはあくまでそのご夫妻の言い分なんですが」

160 「じゃあ、その話はなくなった、と」

「ええ、一応は」横山先生はため息をついた。「私は立場上、そういったことに口出しできないのですが、勝野君にとつては、そのご夫妻のもとで生活する方がいいのではないかと、感じています。ご主人の方は税理士という、社会的にも信用のある仕事をしておられますし」

165 もしかして、説得してくれということなんだろうかと不安になったが、横山先生はそこまで求めてはいなかったようで、「長々とすみませんでした。ではそろそろ」と腰をうかせた。

勇大はその日、母親とどこかに出かけていたらしく、午後九時ごろに二人で帰宅した気配があった。その後は、テレビのバラエティ番組の音が聞こえてきた。

170 日曜日にも曇り空だったが、天気予報によると降水確率は低いようだった。

朝食の後、ロッドを持って外に出ると、勇大が待っていた。「お兄ちゃん、昨日はごめんなさい」と言つて頭を下げたので、「ああ」と少し手あらく頭をなでてやった。

⑧足もとを見ると、勇大は新しいスニーカーをはいていた。そういえば、Tシャツも新品である。

二人で例の場所に向かった。

175 「昨日、お母さんと出かけてたのか」聞いてみると、勇大は「うん」とうなずいた。「お母さん、昨日仕事休みだったから。⑨スーパで買い物して、ゲームセンターに行つて、いっしょにメダルゲームとかした。その後、お好み焼き食べた。自分の分は自分で焼いたんだ」

「ふーん。そうか」

五十メートルほど進んでから、ガードレールのすきまを通つてコンクリート護岸を下りた。

水ぎわに立つて、二人で目をこらした。勇大が先に「あ、あつちにいるみたい」と、排水門の手前を指さした。

180 確かに、ライギョらしき魚影が見える。

「よし、じゃあ、そつと近づいてキャストだ」

「うん」

まずは勇大につらせることにして、潤平はかれの後に続いた。

185 十メートルほど接近して、勇大がジタバグを投げた。間近に着水したが、ライギョはそれにおどろいたようで、波紋を立ててにげてしまった。

「しばらく待ってからルアーを巻いたら、食いに来るかもしれないよね」

潤平がうなずいて返すと、勇大はルアーをそのまま静止させて、水面を見つめた。

「おばさんが君を引き取りたいって言つてくれるんだって？」

勇大がおどろいた顔を向けた。「何で知ってるの？」

190 「ちよつと聞こえちゃつて……」

勇大は何かを考えているような表情になり、ロッドを下げた。

「勇大。友達として意見を言つてもいいか」勇大はうなずかなかつたが、潤平は構わず続けた。「おれは、おばさんのところに行つた方がいいと思うな」心の中で、あのお母さんはたよりにならないし、君にとつてろくなことにならない、とつけ加えた。

195 勇大は静かに笑った。

「だいじようぶ。ぼく、お兄ちゃんに料理教えてもらつたから、お母さんのめんどろ見られるよ。せんたくとか

も、やり方覚えようと思つてるところだし」

200 ⑩あまりに予想外だった返事に潤平は、周りの景色が突然反転してしまったような感覚にとらわれた。自分や担任の教師は勇大のことを心配して、かれのことばかり考えていたのだが、当人は自分のことなどより母親のことを心配している。

「……そうか。めんどろ見られるか」

「うん。お母さんね、夜中によっぱらって帰ってきたときにとどき、一人でこっそり泣いてるんだ。ぼくはねたふりしてるから、なんで泣いてるかは聞けないけど、仕事でいやなことがあるんだ、きつと」

「……………」

205 「ぼくね、お母さんに今まで守ってもらったから、これからはぼくが守るんだ、絶対に」勇大の口調に迷いらしきものは感じられなかった。

父親の暴力の話を思い出した。母親が身を挺して勇大を守ろうとする場面が、何となくうかんだ。あの母親は母親なりに、息子に愛情を注いできたのだろう。だから勇大はそれをしっかりと感じ取っている。

210 就職に手間取っているぐらいで焦っていらついているどこぞのだれかさんとは大ちがいだ。こいつの方がよっぽど器がでかい。

いいやつと友達になれた。Cこの子との出会いこそが自分の身に起きた奇跡だったんだと納得した。

そのとき、突然水面を割って、静止したままのジタバグにライギョが食いついてきた。

「あつ、来たつ」勇大が興奮した声を上げ、潤平が指示するよりも早く、ロッドをあおった。ロッドのしなり具合が尋常ではない。潤平はあわてて「勇大、ドラグ、ドラグをもつとゆるめて」と声をかけた。

215 リールがじりじりと逆回転し、ラインが水面上をdジューウオウに走る。ライギョが一度顔を出し、それから尾びれで水面をたたいた。ジャンプしなかったのは、元気がないからではない。それほどかいからだ。

潤平が「うわっ、むちゃくちゃでかいぞ」とさけぶ。勇大を見ると、とても返事をする余裕なんかないという感じで、こわばった顔でしなりながら動くロッドにふり回されている。

そのとき、しなるロッドをにぎりしめながら勇大が、しばらく出すように言った。

「⑪負けるもんかつ、負けるもんかつ」

(山本甲士『あたり 魚信』より)

〈語注〉※① ロッド…つりざお

※② 就職浪人…就職がうまくいかなかった人

※③ 護岸…水害を防ぐためにつくられた堤防

※④ つなぎ服…上着とズボンが一つにつながった作業着

※⑤ 遭遇…出会うこと

※⑥ つたない…下手であること

※⑦ ルアーフィッシング…小魚や虫などに似せてつくったつり針(ルアー)を用いて行うつり

※⑧ キャスト…つりざおをふってつり針を水中に投げこむ動作

※⑨ ジタバグ…ルアーの一種

※⑩ 身を挺して…身を投げ出して

※⑪ 尋常ではない…ふつうではない

※⑫ ドラグ…つり糸が切れるのを防ぐ装置

※⑬ リール…つり糸をくり出したり巻き取ったりする道具

※⑭ ライン…つり糸

〔設問〕 解答はすべて、解答らんにおさまるように書きなさい。句読点なども一字分とします。

一 〓線 a 「ジガジサン」(7行目)、b 「オガ」(22行目)、c 「ケワ」(148行目)、d 「ジュウオウ」(215行目) のカタカナを、漢字で書きなさい。

二 〓線① 「勇大がアパートの鉄階段のところに座って、空を見上げていた」(9～10行目)とありますが、このときの勇大の気持ちを説明しなさい。

三 〓線② 「手間取る出来事」(70行目)とありますが、具体的にはどのようなことですか。説明しなさい。

四 〓線③ 「うーむ。潤平は頭をかいいた」(88行目)とありますが、潤平がなやんでいるのはなぜですか。82～91行目をよく読んで、説明しなさい。

五 〓線④ 「潤平は腕時計を見て、『うそお』とうめいた。あのときにもどっている」(98行目)とありますが、「あのとき」とは具体的にはどのときを指していますか。ふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 午後、買い物に出かける前に、携帯電話が鳴ったとき。(12行目)

イ ライギョをつつている水路沿いを歩いたとき。(26行目)

ウ 車の解体工場にかけこんだとき。(47行目)

エ 携帯電話を取り出し、部長に連絡を入れたとき。(67～68行目)

六 〓線⑤ 「本人に事情をうかがえ書いた作文でわかりました」(128～129行目)とありますが、横山先生は、作文を読んで勇大についてどのようなことがわかったのですか。説明しなさい。

七 〓線⑥ 「潤平は心の中で、もしかしておれのおかげ? と少々鼻を高くした」(138行目)とありますが、このときの潤平の気持ちを説明しなさい。

八 〓線⑦ 「勝野君の生活環境を心配しておられる」(155行目)とありますが、潤平に出会うまでの勇大の生活について、141～149行目をよく読んで、説明しなさい。

九 〓線⑧ 「足もとを見ると、勇大は新しいスニーカーをはいていた。そういえば、Tシャツも新品である」(172行目)、〓線⑨ 「スーパーで買い物して、ゲームセンターに行って、いっしょにメダルゲームとかした」(175行目)とありますが、この二つの部分からは、母親が勇大にどのように接してきたことがわかりますか。「ということ」につながる形で、本文中から十七字でぬき出して答えなさい。

十 〓線⑩ 「あまりに予想外だった返事に潤平は、周りの景色が突然反転してしまったような感覚にとらわれた」(198行目)とありますが、この部分の説明としてふさわしいものを次のア～エの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア おばさんたちと暮らすことより母親との生活を選んだことで、勇大が母親を支えようとしていることを知り、自分たちおとなが子どもの勇大を守る側にいるという思いこみがくつがえされている。

イ おばさんたちと暮らした方がいいという提案に対し、勇大が母親との生活を選んだことで、社会的に信用のある人と生活することが、子どもにとって一番いいという思いこみがくつがえされている。

ウ おばさんたちと暮らすことを願い、友達として助言したにもかかわらず、母親との生活を選んだ勇大の姿に、かれが自分の言うことは必ず聞き入れるはずだという思いこみがくつがえされている。

エ おばさんたちと暮らすことを選ぶと考えていたが、勇大が母親との生活を選んだことで、母親の愛情の深さに気付き、母親と暮らしてもしるくなくならないという思いこみがくつがえされている。

十一 〓線⑪ 「負けるもんかっ、負けるもんかっ」(220行目)とありますが、作品全体の内容考えたとき、勇大のこの言葉には、どのような意味があると考えられますか。説明しなさい。

十二 〓線 「奇跡を信じたければ、つりをするがいい」(20行目)とあるように、この作品にはつりをすることで生まれる「奇跡」がえがかれています。

(1) 〓線 A 「つりが奇跡を起こす」(80行目)、〓線 B 「奇跡が起きた」(114行目)では、それぞれどのようなことが「奇跡」なのです。答えなさい。

(2) 〓線 C 「この子との出会いこそが自分の身に起きた奇跡だった」(211行目)とありますが、「この子との出会いこそ」が「奇跡」だというのはどういうことですか。説明しなさい。

十三 この作品において、年のはなれた潤平と勇大との間に交流が生まれたのは、二人に共通するものがあつたからだと考えられます。それはどのようなものですか。二つの……線「いや、だめだ。立ち去ってはいけない。そばにいてやらなければ」(106～107行目)、「だいじようぶ。ぼく、お兄ちゃんに料理教えてもらったから、お母さんのめんどろ見られるよ」(196行目)に注目して説明しなさい。

〈問題はここで終わります〉

受 験 番 号	
氏 名	

国語解答用紙

a			
b			
c			
d			

[illegible]

1. **Introduction**
 2. **Methodology**
 3. **Results**
 4. **Discussion**
 5. **Conclusion**
 6. **References**
 7. **Appendix**
 8. **Index**
 9. **Glossary**
 10. **Notes**
 11. **Footnotes**
 12. **Endnotes**
 13. **Supplementary Material**
 14. **Tables**
 15. **Figures**
 16. **Equations**
 17. **Formulas**
 18. **Diagrams**
 19. **Charts**
 20. **Graphs**
 21. **Tables**
 22. **Figures**
 23. **Equations**
 24. **Formulas**
 25. **Diagrams**
 26. **Charts**
 27. **Graphs**
 28. **Tables**
 29. **Figures**
 30. **Equations**
 31. **Formulas**
 32. **Diagrams**
 33. **Charts**
 34. **Graphs**
 35. **Tables**
 36. **Figures**
 37. **Equations**
 38. **Formulas**
 39. **Diagrams**
 40. **Charts**
 41. **Graphs**
 42. **Tables**
 43. **Figures**
 44. **Equations**
 45. **Formulas**
 46. **Diagrams**
 47. **Charts**
 48. **Graphs**
 49. **Tables**
 50. **Figures**
 51. **Equations**
 52. **Formulas**
 53. **Diagrams**
 54. **Charts**
 55. **Graphs**
 56. **Tables**
 57. **Figures**
 58. **Equations**
 59. **Formulas**
 60. **Diagrams**
 61. **Charts**
 62. **Graphs**
 63. **Tables**
 64. **Figures**
 65. **Equations**
 66. **Formulas**
 67. **Diagrams**
 68. **Charts**
 69. **Graphs**
 70. **Tables**
 71. **Figures**
 72. **Equations**
 73. **Formulas**
 74. **Diagrams**
 75. **Charts**
 76. **Graphs**
 77. **Tables**
 78. **Figures**
 79. **Equations**
 80. **Formulas**
 81. **Diagrams**
 82. **Charts**
 83. **Graphs**
 84. **Tables**
 85. **Figures**
 86. **Equations**
 87. **Formulas**
 88. **Diagrams**
 89. **Charts**
 90. **Graphs**
 91. **Tables**
 92. **Figures**
 93. **Equations**
 94. **Formulas**
 95. **Diagrams**
 96. **Charts**
 97. **Graphs**
 98. **Tables**
 99. **Figures**
 100. **Equations**
 101. **Formulas**
 102. **Diagrams**
 103. **Charts**
 104. **Graphs**
 105. **Tables**
 106. **Figures**
 107. **Equations**
 108. **Formulas**
 109. **Diagrams**
 110. **Charts**
 111. **Graphs**
 112. **Tables**
 113. **Figures**
 114. **Equations**
 115. **Formulas**
 116. **Diagrams**
 117. **Charts**
 118. **Graphs**
 119. **Tables**
 120. **Figures**
 121. **Equations**
 122. **Formulas**
 123. **Diagrams**
 124. **Charts**
 125. **Graphs**
 126. **Tables**
 127. **Figures**
 128. **Equations**
 129. **Formulas**
 130. **Diagrams**
 131. **Charts**
 132. **Graphs**
 133. **Tables**
 134. **Figures**
 135. **Equations**
 136. **Formulas**
 137. **Diagrams**
 138. **Charts**
 139. **Graphs**
 140. **Tables**
 141. **Figures**
 142. **Equations**
 143. **Formulas**
 144. **Diagrams**
 145. **Charts**
 146. **Graphs**
 147. **Tables**
 148. **Figures**
 149. **Equations**
 150. **Formulas**
 151. **Diagrams**
 152. **Charts**
 153. **Graphs**
 154. **Tables**
 155. **Figures**
 156. **Equations**
 157. **Formulas**
 158. **Diagrams**
 159. **Charts**
 160. **Graphs**
 161. **Tables**
 162. **Figures**
 163. **Equations**
 164. **Formulas**
 165. **Diagrams**
 166. **Charts**
 167. **Graphs**
 168. **Tables**
 169. **Figures**
 170. **Equations**
 171. **Formulas**
 172. **Diagrams**
 173. **Charts**
 174. **Graphs**
 175. **Tables**
 176. **Figures**
 177. **Equations**
 178. **Formulas**
 179. **Diagrams**
 180. **Charts**
 181. **Graphs**
 182. **Tables**
 183. **Figures**
 184. **Equations**
 185. **Formulas**
 186. **Diagrams**
 187. **Charts**
 188. **Graphs**
 189. **Tables**
 190. **Figures**
 191. **Equations**
 192. **Formulas**
 193. **Diagrams**
 194. **Charts**
 195. **Graphs**
 196. **Tables**
 197. **Figures**
 198. **Equations**
 199. **Formulas**
 200. **Diagrams**
 201. **Charts**
 202. **Graphs**
 203. **Tables**
 204. **Figures**
 205. **Equations**
 206. **Formulas**
 207. **Diagrams**
 208. **Charts**
 209. **Graphs**
 210. **Tables**
 211. **Figures**
 212. **Equations**
 213. **Formulas**
 214. **Diagrams**
 215. **Charts**
 216. **Graphs**
 217. **Tables**
 218. **Figures**
 219. **Equations**
 220. **Formulas**
 221. **Diagrams**
 222. **Charts**
 223. **Graphs**
 224. **Tables**
 225. **Figures**
 226. **Equations**
 227. **Formulas**
 228. **Diagrams**
 229. **Charts**
 230. **Graphs**
 231. **Tables**
 232. **Figures**
 233. **Equations**
 234. **Formulas**
 235. **Diagrams**
 236. **Charts**
 237. **Graphs**
 238. **Tables**
 239. **Figures**
 240. **Equations**
 241. **Formulas**
 242. **Diagrams**
 243. **Charts**
 244. **Graphs**
 245. **Tables**
 246. **Figures**
 247. **Equations**
 248. **Formulas**
 249. **Diagrams**
 250. **Charts**
 251. **Graphs**
 252.

.....

四

[illegible]

三

7

$$\frac{1}{2}$$
[illegible]

L

.....

24

[illegible]

九.

ということ

+



+

--	--

+

1
A

B

2.

[illegible]

1

[illegible]

	(合 計)
--	-------

(合 計)

(整理番号)